

ECO ACTION 21  
環境経営レポート

期間：2020年6月 ～ 2021年5月

幸せ化学

Clean Green Sustainable



絶滅危惧植物  
ミシマサイコの苗

作成日：2021年9月1日

日本ゼトック株式会社

## 目 次

1. 組織の概要	3
2. 対象範囲	3
3. 環境経営方針	4
4. 環境経営目標	4
5. 環境経営計画と、環境経営計画に基づき実施した取組内容	5
6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価	9
7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画	15
8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無	20
9. その他の活動	21
10. 代表者による全体の評価と見直し・指示	28

# 1. 組織の概要

## (1) 事業所名及び代表者

会社の名称 日本ゼトック株式会社 (NIPPON ZETTOC CO.,LTD)  
代表者 代表取締役会長兼 CEO 牧田 裕樹  
代表取締役社長兼 COO 神保 貞夫

## (2) 所在地

本社	東京都新宿区西新宿 1 丁目 26 番 2 号 新宿野村ビル 12F TEL : 03-5323-2020 (代表) FAX : 03-5323-3010 (代表)
相模原事業所	神奈川県相模原市緑区大山町 1 番 5 号 TEL : 042-775-8700 (代表) FAX : 042-775-7012 (代表)
大阪営業所	大阪府大阪市中央区安土町 3 丁目 2 番 4 号 JUST 本町ビル 7F TEL : 06-6262-6881 (代表) FAX : 06-6262-6601 (代表)
新生富山事業所	富山県中新川郡上市町三日市 22 番地 TEL : 076-472-0380 (代表) FAX : 076-472-0339 (代表)

## (3) 環境管理責任者氏名及び連絡先

環境管理責任者：江尻 茂之  
連絡先：TEL : 03-5323-2020 FAX : 03-5323-3010 E-mail : ejiri@zettoc.co.jp

## (4) 事業活動

医薬品・医薬部外品・医療機器・化粧品・雑貨の研究開発及び製造販売

## (5) 事業規模

設立 1954 年 (昭和 29 年) 2 月 12 日  
資本金 9,600 万円  
売上高 10,597 百万円 (80 期/2020 年 6 月 1 日～2021 年 5 月 31 日)

	従業員数 (人)	延床面積 (m <sup>2</sup> )
本社	66	572.28
相模原事業所	338	24,093.43
大阪営業所	1	70.60
新生富山事業所	27	3,161.09

従業員には派遣社員、パート等を含む (2021 年 5 月 31 日時点)

# 2. 対象範囲

## (1) 認証・登録の範囲

本社、相模原事業所、大阪営業所、新生富山事業所

## (2) レポート対象期間及び発行日

レポート対象期間：2020 年 6 月 1 日～2021 年 5 月 31 日  
レポート発行日：2021 年 9 月 1 日

### 3. 環境経営方針

## 環境経営方針

<ミッション>  
 私たちは、人々の幸せと健やかなる未来を創造し、  
 世界中に笑顔をお届けまいります。

**【環境経営方針】**  
 当社は、変化の激しい事業を取巻く状況がうむ課題とチャンスを踏まえ、上記の当社ミッションを念頭に、全ての事業活動を通じて、地域社会への貢献と地球環境の保全に、全社一丸となり、継続的改善をしながら積極的に取り組むことを誓います。

**【環境経営方針実現のための行動指針】**

- ◆環境に関する法規制等につき、その遵守を誓います。
- ◆環境目標を定め、環境負荷に対して継続的な改善に努めます。
  - ・電気消費量の削減を中心に、二酸化炭素排出量削減に取り組みます
  - ・産業廃棄物の削減を中心に、廃棄物排出量削減に取り組みます
  - ・上水、井水の排水状況を管理し、総排水量削減に取り組みます
  - ・当社で使用する化学物質の管理を徹底します
- ◆当社が提供する製品等につき、環境への配慮を推進します。
- ◆ESG経営・SDGsを推進します。
- ◆環境経営方針を全従業員に周知します。
- ◆当社が行なう環境に関する活動を広く社会に発信します。

2020年8月7日 改定

日本ゼットック株式会社 代表取締役社長 神保貞夫

### 4. 環境経営目標 80期

事業所	項目	目標
本社	CO2 排出量	電力使用量の維持 (kWh)、CO2 排出量の維持 (t)
	廃棄物量	一般廃棄物の最終処分量削減 (kg)、一般廃棄物の再資源廃棄物量削減 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	CSR 活動	CSR 活動の実施
相模原事業所	CO2 排出量	電力使用量の現状維持 (kWh)、電力使用量の原単位削減 (kWh)、ガス使用量の現状維持 (m3)、ガス使用量の原単位削減 (m3)、ガソリン使用量の現状維持 (L)、ガソリン使用量の原単位削減 (L)、軽油使用量の測定 (L)、CO2 排出量の現状維持 (t)、CO2 排出量の原単位削減 (t)
	廃棄物	汚泥 (充填不良、廃バルク) の削減 (kg)、汚泥 (充填不良、廃バルク) の原単位削減 (kg)、廃プラスチック類量の削減 (kg)、廃プラスチック類量の原単位削減 (kg)
	上水使用量	上水使用量の削減 (m3)、上水使用量の原単位削減 (m3)
	下水排出量	下水道排水の削減 (m3)、下水道排水の原単位削減 (m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の現状維持：PRTR 制度対象物質 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	生物多様性保全活動	生物多様性保全活動の実施
	製品開発	製品開発において環境に配慮した施策を行う

以下、次頁へ

前頁続き

大阪営業所	CO2 排出量	電力使用量の維持 (kWh) 、CO2 排出量の維持 (t)
	上水使用量	上水使用量の把握 (m3)
	廃棄物量	一般廃棄物の最終処分量削減 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	製品開発	環境に配慮した製品の開発
新生富山事業所	CO2 排出量	電力使用量の測定 (kWh) 、LPG 使用量の測定 (m3) 、ガソリン使用量の削減 (L) 、CO2 排出量の測定 (t)
	廃棄物量	廃プラスチック類の量の測定 (kg)
	上水使用量	上水使用量の測定 (m3)
	下水排出量	下水使用量の測定 (m3)
	化学物質の管理	化学物質使用量の測定 : PRTR 制度対象物質 (kg)
	物質使用量	コピー用紙使用量の削減 (枚)
	CSR 活動	毎月、周辺地域のゴミ拾い活動の実施

※詳細は、「6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価」に記載

## 5. 環境経営計画と、環境経営計画に基づき実施した取組内容

### 5. 1 本社 (80 期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量の維持 CO2 排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施を徹底する	○
			使っていない電気機器の電源オフを実施する	◎
			周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める	◎
			NO 残業デイの徹底 (最終消灯 21:00 厳守)	◎
			室温管理 (冷房 26℃/暖房 20℃)	※2
2	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減 機密書類溶解廃棄物の削減 シュレッダーの削減 段ボールの削減 古新聞の削減 ペットボトルの削減	排出量の現状把握と管理	◎
			使用済封筒・可能な裏紙の再利用	○
			印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	○
			ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進 POP	△
			ゴミ削減 (eco) の意識の徹底の為に施策を実施	○
			据え付け紙コップ使用を最小限に留める。マイボトル、マイ水筒等を使用する	○
			仕出し弁当を開始し、お弁当箱のリユース	△
			使用量の現状把握と管理と、周知の徹底	△
3	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める	◎
			両面、集約等の機能を有効活用	◎
			印刷した印刷物を必ず回収する	△
			自社発信の活動への参加を検討する	×
4	CSR 活動	80 期～82 期で提案・実施 3 件	野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地域における CSR 活動への参加も検討する	◎

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

※1：本社では、化学物質の使用はなく、上水使用量はビルで一括管理しているため、計画項目に盛り込んでいない

※2：室温管理については、ビル全体で集中管理されているため、実施ができなかった

## 5. 2 相模原事業所 (80期)

項目		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量、ガス使用量、ガソリン使用料、軽油使用料、CO2 排出量の現状維持、原単位の削減	共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理（夏季 26℃、冬季 20℃）	○
			不在時の消灯実施	◎
			空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄	◎
			コンプレッサーのエアリーク箇所の改善	△
			社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物	汚泥（充填不良・廃バルク）の削減	残バルクの低減	◎
			ロットアウトの低減・改善	△
	廃プラスチック類の削減	再資源化の検討	◎	
		不用品廃棄・削減	◎	
3	上水使用量	上水使用料の削減	効率的なバルク製造	○
			節水の実施	◎
4	排水量	下水道排水の削減	効率生産による洗浄回数の改善	○
			節水の実施	◎
5	化学物質の管理	化学物質の現状維持 (PRTR 制度対象物質)	現状の把握と管理	◎
			バルクロットアウトの低減・改善	△
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	○
7	生物多様性	生物多様性保全活動	地域の活動に参加	◎
			相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミヤマサイコを育成・栽培	◎
			従業員への啓蒙	◎
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う		環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	◎
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	◎
			環境に配慮した製品仕様を検討する	◎
			SDGs に関する勉強会に参加する	◎

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

### 5. 3 大阪営業所 (80期)

項目 ※1		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量の維持 CO2 排出量の維持	不在時と休憩時間の消灯実施	◎
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
2	上水使用量	上水使用量を把握する	節水に心がける	◎
3	一般廃棄物	一般ごみ・紙類の削減または維持 機密書類溶解廃棄物の削減または維持 ペットボトルの削減または維持	排出量の現状と把握	◎
			使用済み封筒等再利用徹底	△
			印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める	◎
			ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底	○
4	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用	◎
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	○
			電子ファイル化推進	○
5	環境に配慮した製品の開発		環境に配慮した製品の開発を行う	◎
			取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う	○
			環境に配慮した原料、資材の使用を推進する	△
			環境に配慮した製品仕様を検討する	○

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

※1：大阪営業所では、化学物質の使用はないため、計画項目に盛り込んでいない

### 5. 4 新生富山事業所 (80期)

項目		環境経営計画	取組内容	
1	CO2 排出量	電力使用量を把握する LPG 使用量を把握する ガソリン使用量の削減 CO2 排出量を把握する	不在時と休憩時間の消灯実施	○
			使っていない電気機器の電源オフ実施	◎
			夏季冬季のエアコン設定温度管理	○
			社有車のアイドリングストップ	◎
2	廃棄物量	廃プラスチック類の量を把握する	再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測定し、記録する	○
3	上水使用量	上水使用量を把握する	節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し記録する	◎
4	排水量	下水道排水の削減	節水に心がけつつ、下水道排水量を毎月測定し記録する	◎
5	化学物質の管理	化学物質の使用量を把握する (PRTR 制度対象物質)	PRTR 制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、記録する	◎
6	物質使用量	コピー用紙の削減	印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める	◎
			両面・集約等の機能を活用する	○
			ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)	○
7	CSR 活動	周辺地域のゴミ拾い活動	毎月、周辺地域のゴミ拾い活動をする	◎

◎：実績に繋がる取組ができた、○：取組ができた、△：取組が不十分だった、×：取組が不十分で来期は工夫が必要

5. 5 エコアクション21 推進 組織図



\* : エコアクション21 推進委員

## 6. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果とその評価

### 6.1 本社 (80期)

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	80期 目標値	80期 実績値	80期 結果
1	CO2排出量削減 (t)	14.85	14.85	14.85	13.09	目標達成
	(基準年比)	—	±0	±0	▲11.9%	
	電力使用量削減 (kWh)	27,980	27,980	27,980	26,360	目標達成
	(基準年比)	—	±0	±0	▲5.8%	
<p>80期は、前期より引き続きコロナ禍での時差出勤を行っており、以前実施していた昼食時等の一斉電気消灯も継続が困難になり、削減への活動には困難な状況もあった。しかし、80期の電気使用量は78期と比較して5.8%減となっている。不在室の消灯実施と残業ルールの徹底、社内TV・PCなどの省エネモードへの努力によるものと考えられる。これに連動して、80期の二酸化炭素排出量は、78期と比較して11.9%減となっている。引き続き使用量の低減に努めていく。</p>						
2	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減 (kg)	4,241	4,029	4,156	3,221	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	▲24.1%	
	一般廃棄物の再資源廃棄物量削減 (kg)	1,112	1,056	1,090	1,408	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	+26.6%	
<p>80期の最終処分廃棄物は78期と比較すると24.1%削減となっている。在宅勤務による影響も考えられるが、ゴミ削減に対する意識の徹底との相乗効果により、大幅な削減を達成することができた。</p> <p>但し、80期の再資源化廃棄物は78期と比較し26.6%の増加となった。こちらの要因としては、新製品が増え、製品や包装材料確認のための輸送段ボールの使用頻度が増えたためと考えられる。今後も引き続き、SDGs推進の一環として、ゴミ削減の意識付けを行っていく。</p>						
3	コピー用紙使用量削減 (枚)	239,000	227,050	234,220	201,100	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	▲15.9%	
	<p>印刷物を必要最小限とし、両面及び集約機能の活用を掲示を行うことで意識づけを行った。また、コロナ禍での在宅業務で使用量が減少したこともあり、80期は78期と比較すると15.9%減となった。</p>					
4	CSR活動の実施	—	提案3件 実施3件	提案1件 実施1件	1件	目標達成
	<p>本社は野村ビル側との兼ね合いもあり対外的なCSR活動が難しいという課題を抱えており、今期はそのような状況下でも可能な取り組みとして「従業員の意識の向上」をテーマに活動を行うこととした。</p> <p>フロア内でのごみの分別については掲示により意識づけが徹底されているものの、マイカップ・マイボトルやコピー用紙については呼びかけをしたことがなかったため、社内複数個所に新たに掲示を行った。小さなことの積み重ねが会社の持続的発展や環境保全に繋がることを意識し、今後も可能な範囲での活動を模索していきたい。</p>					

※CO2排出量係数：電気・0.000455t/kWh（調整後）、ガソリン・0.00232t/L

## 6. 2 相模原事業所 (80期)

項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	80期 目標値	80期 実績値	80期 結果
CO2 排出量現状維持 (t)	2,885	2,885	2,885	3,383	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+17.3%	
CO2 排出量原単位削減 (t)	$2.81 \times 10^{-5}$	$2.666 \times 10^{-5}$	$2.75 \times 10^{-5}$	$3.06 \times 10^{-5}$	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+8.9%	
電力使用量現状維持 (t)	5,006,909	5,006,909	5,006,909	5,758,650	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+15.0%	
電力使用量原単位削減 (t)	0.0487	$4.626 \times 10^{-2}$	0.0477	0.0521	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+7.0%	
ガス使用量現状維持 (m3)	271,886	271,886	271,886	339,732	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+25.0%	
ガス使用量原単位削減 (m3)	$2.64 \times 10^{-3}$	$2.512 \times 10^{-3}$	$2.591 \times 10^{-3}$	$3.08 \times 10^{-3}$	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+16.7%	
ガソリン使用量現状維持 (L)	383	383	383	592	目標未達
(基準年比)	—	±0	±0%	+54.6%	
ガソリン使用量原単位削減 (L)	$3.72 \times 10^{-6}$	$3.538 \times 10^{-6}$	$3.65 \times 10^{-6}$	$5.36 \times 10^{-6}$	目標未達
(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+44.1%	
軽油使用量現状維持 (L)	—	80期を基準年 とし現状維持	使用量の測定	1,491	目標達成
<p>電気使用量は基準年(78期)と比較して増加となった。今期は新棟を増設し、昨年8月より新生産ラインの稼働を開始した。そのため電 気量が増加したと考える。製品1本当たりの電気使用量に換算すると78期比は7.0%の増加となった。省エネルギー推進委員会を通じて 省エネ対策を行い、削減に努めていきたい。都市ガス使用量は基準年と比較して増加となった。ボイラーの放熱量の削減対策を行ったが、 新棟の増設により生産量が増え、ガスの使用量が増加したと考える。製品1本当たりのガス使用量に換算すると78期比は16.7%の増加と なった。81期もガスの削減に努めていきたい。</p> <p>ガソリン使用量は基準年と比較して増加となった。新棟に関わる官公庁への書類提出やCSR活動による外出業務が増えたことが要因と 考える。製品1本当たりの使用量に換算すると78期比は44.1%増加となった。軽油使用量は1,491Lだった。81期も燃費のよい運転を 心掛けた。</p> <p>二酸化炭素排出量は基準年と比較し増加となった。新棟を増設し、新生産ラインが稼働したことにより製品の生産量が増加したためと考 える。製品1本当たりの排出量に換算すると78期比は8.9%増加となった。</p>					

以下、次頁へ

前頁続き

2	廃棄汚泥量削減 (kg)	660,790	627,750	647,574	667,746	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+3.1%	
	廃棄汚泥量原単位削減 (kg)	$6.43 \times 10^{-3}$	$6.105 \times 10^{-3}$	$6.30 \times 10^{-3}$	$6.04 \times 10^{-3}$	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	▲6.1%	
	廃棄プラスチック量削減 (kg)	123,255	117,092	120,790	78,380	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	▲36.4%	
廃棄プラスチック量削減 (kg)	$1.20 \times 10^{-3}$	$1.139 \times 10^{-3}$	$1.18 \times 10^{-3}$	$0.71 \times 10^{-3}$	目標達成	
(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	▲40.8%		
<p>汚泥排出量は基準年（78期）より増加した。今期のバルク廃棄量が78期より増えたことが要因と考える。製品1本当たりに換算すると6.1%削減となった。来期はバルク排気量の更なる低減に努めていきたい。</p> <p>廃プラスチック類排出量は基準年より36.4%減少した。今期はプラスチック容器を使用する液物製品が約3割減少したことが要因と考える。製品1本当たりに換算すると40.8%削減となった。来期は更なる削減活動を実施していく。</p>						
3	上水使用量削減 (m3)	25,666	24,382	25,152	26,650	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+3.8%	
	上水使用量原単位削減 (m3)	$2.50 \times 10^{-4}$	$2.371 \times 10^{-4}$	$2.45 \times 10^{-4}$	$2.41 \times 10^{-4}$	目標達成
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	▲3.6%	
<p>基準年（78期）と比較し増加となった。新棟を増設し、新生産ラインが稼働したことにより製品の生産量が増加したためと考える。製品1本当たりに換算すると3.6%削減となった。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる上水使用量の低減を図る。</p>						
4	下水道排出量削減 (m3)	47,114	44,758	46,172	50,062	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	+6.3%	
	下水道排出量原単位削減 (m3)	$4.58 \times 10^{-4}$	$4.353 \times 10^{-4}$	$4.49 \times 10^{-4}$	$4.52 \times 10^{-4}$	目標未達
	(基準年比)	—	▲5%	▲2.0%	▲1.3%	
<p>基準年（78期）と比較し下水道排出量は増加となった。製品の生産量の増加が要因と考える。製品1本当たりに換算すると1.3%削減となった。来期も節水の啓蒙活動を強化し更なる下水道排水量の低減を図る。</p>						
5	化学物質の管理:PRTR 制度対象物質 (kg)	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,575	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,575	F : 22,402 POE : 0 NaDS : 72,675	F : 目標未達 PEO : 目標達成 NaDS : 目標達成
	(基準年比)	—	±0	±0	F : +34.2% PEO : ±0% NaDS : ▲5.1%	
	<p>フッ化水素及びその水溶性塩については基準年（78期）比34.2%増加となった。ドデシル硫酸ナトリウムについては5.1%削減となった。フッ化水素及びその水溶性塩に関してはフッ素入り歯磨の生産量増加が要因と考える。ポリオキシエーテルは今期も使用していない。これからもPRTP法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していく。</p>					
6	コピー用紙使用量削減 (枚)	897,500	807,750	852,625	970,000	目標未達
	(基準年比)	—	▲10%	▲5.0%	+8.1%	
<p>基準年（78期）比8.1%増加となった。今期は新棟（3号棟）が増設し、それに伴い規定書及び手順書の改訂を行ったためと考える。来期もペーパーレスの推進活動に努めていく。</p>						

以下、次頁へ

前頁続き

7	地域活動「柴胡の会」に参加 ミシマサイコの苗を育成	—	相模事業所の敷地 で絶滅危惧所 ミシマサイコの 育成・栽培、啓 発の実施	・地域活動 ・栽培実施 ・啓蒙活動 ・苗の配布	・実施 ・実施 ・実施 ・実施	目標達成
	月1回の地域活動に参加し、ミシマサイコの保全活動を行った。事業所内においては種をまいて育成・栽培を行った。また従業員に苗を配布して普及活動も実施した。来期は事業者内の栽培エリアの拡張と社内掲示版等で啓蒙活動を計画している。					
8	製品開発において環境に配慮 した施策を行う	—	80～82期で 合計3件実施	1件実施	1件実施した	目標達成
	環境に配慮した商品を今期は1件提案し、商品化した。FSC認証マークのある紙をパッケージに使用した化粧品が商品化された。認証紙については、今後も提案を続けていく。その他も、色々な方面から環境に配慮した製品造りを進めたいと思う。					

※CO2 排出量係数：電気・0.000455t/kWh（調整後）、ガス・0.00223t/Nm<sup>3</sup>、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258 t/L

※化学物質の管理／ F：フッ素関連、POE：ポリオキシエーテル、NaDS：ドデシル硫酸ナトリウム

6. 3 大阪営業所（80期）

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標)	80期 目標値	80期 実績値	80期 結果
1	CO2 排出量削減 (t)	2.15	2.039～2.254	2.039～2.254	1.80	目標達成
	(基準年比)	—	±5.0%	±5.0%	▲16.3%	
	電力使用量削減 (kWh)	6,427	6,106～6,748	6,106～6,748	5,391	目標達成
	(基準年比)	—	±5.0%	±5.0%	▲16.1%	
80期活動において、電気使用量の削減を徹底した。その結果、目標を達成した。引き続き、安定的な削減に努めていく。						
2	上水使用量の把握 (m <sup>3</sup> )	23	21.9～24.2	21.9～24.2	7	目標達成
	(基準年比)	—	±5.0%	±5.0%	▲69.6%	
節水に努めた。78期と比較すると上水使用料は大きく減少したが、コロナの影響で在宅勤務が増えたことが要因と思われる。今後も現状維持に努めていく。						
3	一般廃棄物の削減 (kg)	434	412～434	412	161	目標達成
	(基準年比)	—	±5.0%	▲5.0%	▲62.9%	
	ゴミの分別、削減に努めた結果、78期と比較すると処分量は減少した。コロナの影響で在宅勤務が増えたことも要因となっている。今後も現状維持に努めていく。					
4	コピー用紙使用量削減 (枚)	14,795	13,315	18,456	3,866	目標達成
	(基準年比)	—	▲10%	▲3.0%	▲73.9%	
	78期と比較するとコピー用紙の使用量は73.9%減少した。これは、PDF化など用紙の削減を推進した結果だと考えられる。また、在宅勤務も増え、取引先とのやり取りもデータ化することが多くなった。					
5	環境に配慮した製品の開発	—	80～82期で 合計3品目実施	1品目実施	1品目実施した	目標達成
	FSC認証の個箱を使用した製品を1品目開発した。					

※CO2 排出量係数：電気・0.000334t/kWh（調整後）

#### 6. 4 新生富山事業所 (80 期)

	項目	78 期 (基準年度) 実績値	82 期 (中期目標)	80 期 目標値	80 期 実績値	80 期 結果
1	CO2 排出量の把握 (t)	—	80 期を基準年 とし、80 期比 95%~100%	毎月測定	703.0	目標達成
	電力使用量の把握 (kWh)	—	80 期を基準年 とし、80 期比 95%~100%	毎月測定	868,322	目標達成
	LPG 使用量の把握 (m3)	—	80 期を基準年 とし、80 期比 95%~100%	毎月測定	37,192	目標達成
	ガソリン使用量の把握 (L)	1,106 (79 期実績)	1,073	1,083	929	目標達成
	(基準年比)	—	▲3%	▲2.0%	▲16.0%	
<p>79 期 3 月より新生富山事業所が本格的に稼働し 2 年目となった。全体的にエネルギー使用量が増加しており、それに伴い二酸化炭素排出量も増加している。79 期と比較して相模原事業所から移管された製品数の増加や新製品の各種バリデーション等が要因として考えられる。今後、夏季・冬季の現状を把握しつつ、社内の節電意識の向上や対策を行い、電気使用量・プロパンガス・二酸化炭素排出量の削減に努めていく。</p> <p>80 期のガソリン使用量は 929L で、前期比 16.0%削減となった。エコドライブを推進してガソリン使用量の継続的な削減に努めていく。</p>						
2	廃プラスチック類の量の把握 (kg)	—	80 期を基準年 とし、80 期比 95%~100%	毎月測定	0	目標達成
	80 期の廃プラスチック類排出量はなかった。アイテムの追加等で増える可能性もあるが、今後の排出量の推移を見守りたいと考えている。					
3	上水使用量の把握 (m3)	—	80 期を基準年 とし、80 期比 95%~100%	毎月測定	2,600	目標達成
	79 期 3 月より新生富山事業所が本格的に稼働し 2 年目となる。今後、現状を把握しつつ、社内の節水意識の向上や対策を行い、上水使用量の低減を図る。					
4	下水使用量の把握 (m3)	—	80 期を基準年 とし、80 期比 95%~100%	毎月測定	2,778	目標達成
	79 期 3 月より新生富山事業所が本格的に稼働し 2 年目となる。今後、現状を把握しつつ、社内の排水低減の意識向上や対策を行い、下水使用量の低減を図る。					

以下、次頁へ

前頁続き

5	化学物質使用量の把握：PRTR 制度対象物質（kg）	—	80期を基準年 とし、80期比 95%～100%	毎月測定	59	目標達成
	ドデシル硫酸ナトリウムについては複数の特定の製品にしか使用していないので、急激に増減はしないと考えている。これからもPRTP 法対象物質の使用量を把握し、しっかりと管理していく。					
6	コピー用紙使用量の把握 （枚）	43,500 （79期実績）	39,200	42,200	85,000	目標未達
	（基準年比）	—	▲10%	▲3.0%	+95.4%	
コピー用紙使用量は、実績には挙げられておりませんが前期比3.3%減少となっています。今後は印刷物を必要最低限の部数に留める、両面・ 集約等の機能活用、ペーパーレスの推進等を行い、使用量の低減に努めたいと思います。						
7	近隣地域のゴミ拾い活動	—	活動の開始及び 継続	毎月、周辺地 域のゴミ拾い活 動をする	5回実施	目標達成
	80期から始めた「ゴミ拾い活動」は5回行った。期初の目標は毎月行うこととしたが、コロナ禍の影響や季節の影響（真夏や真冬の気温、 天候）も鑑み、年間6回程度を目安として行った。来期も新規ルートの開拓を含め、同等の活動を目指す。					

※CO2 排出量係数：電気・0.000527t/kWh（調整後）、LPG・0.00655t/m3、ガソリン・0.00232t/L

## 7. 次年度の環境経営目標及び環境経営計画 81期

### 7.1 本社 (81期)

	項目	78期 (基準年度) 実績値	82期 (中期目標) 目標値	81期 (来期) 目標値
1	CO2排出量の維持 (t)	14.85	14.85	14.85
	(基準年比)	—	±0	±0
	電力使用量の維持 (kWh)	27,980	27,980	27,980
	(基準年比)	—	±0	±0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不在時と休憩時間の消灯実施を徹底する</li> <li>・使っていない電気機器の電源オフを実施する</li> <li>・周辺機器を清掃し、より少ない電力で利用効率を高める</li> <li>・NO残業ダイの徹底 (最終消灯 21:00 厳守)</li> </ul>			
2	一般廃棄物の最終処分廃棄物量削減 (kg)	4,241	4,029	4,156
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%
	一般廃棄物の再資源廃棄物量削減 (kg)	1,112	1,056	1,090
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排出量の現状把握と管理</li> <li>・使用済封筒・可能な裏紙の再利用</li> <li>・印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める</li> <li>・ペーパータオルの使用量を必要最小限に留める→促進POP</li> <li>・ゴミ削減 (eco)の意識の徹底の為の施策を実施</li> <li>・据え付け紙コップ使用を最小限に留める/マイボトル、マイ水筒等を使用する</li> <li>・仕出し弁当を開始し、お弁当箱のリユース</li> </ul>			
3	コピー用紙使用量削減 (枚)	239,000	227,050	234,220
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・使用量の現状把握と管理、周知の徹底</li> <li>・印刷物を作成する場合は、必要最小限の部数に留める</li> <li>・両面、集約等の機能を有効活用</li> <li>・印刷した印刷物を必ず回収する</li> </ul>			
4	CSR活動の実施	—	提案3件、実施3件	提案1件、実施1件
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自社発信の活動への参加を検討する</li> <li>・野村ビル全体での活動、新宿区、周辺地区におけるCSR活動への参加も検討する</li> </ul>			

※CO2排出量係数：電気・0.000455t/kWh (調整後)、ガソリン・0.00232t/L

## 7. 2 相模原事業所 (81 期)

	項目	78 期 (基準年度) 実績値	82 期 (中期目標) 目標値	81 期 (来期) 目標値	
1	CO2 排出量の現状維持 (t)	2,885	2,885	2,885	
	(基準年比)	—	±0%	±0%	
	CO2 排出量の原単位削減 (t)	2.806×10 <sup>-5</sup>	2.666×10 <sup>-5</sup>	2.750×10 <sup>-5</sup>	
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	
	電力使用量の現状維持 (kWh)	5,006,909	5,006,909	5,006,909	
	(基準年比)	—	±0%	±0%	
	電力使用量の原単位削減 (kWh)	4.869×10 <sup>-2</sup>	4.626×10 <sup>-2</sup>	4.772×10 <sup>-2</sup>	
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	
	ガス使用量の現状維持 (m3)	271,886	271,886	271,886	
	(基準年比)	—	±0%	±0%	
	ガス使用量の原単位削減 (m3)	2.644×10 <sup>-3</sup>	2.512×10 <sup>-3</sup>	2.591×10 <sup>-3</sup>	
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	
	ガソリン使用量の現状維持 (L)	383	383	383	
	(基準年比)	—	±0%	±0%	
ガソリン使用量の原単位削減 (L)	3.724×10 <sup>-6</sup>	3.538×10 <sup>-6</sup>	3.650×10 <sup>-6</sup>		
(基準年比)	—	▲5%	▲2%		
軽油使用量の現状維持 (L)	1,491 (80 期実績)	1,491	1,491		
(基準年比)	—	±0%	±0%		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・共有エリアの夏季冬季のエアコン設定温度管理 (夏季 26℃、冬季 20℃)</li> <li>・不在時の消灯実施</li> <li>・空調機のフィルター清掃、室外機と熱交換器の洗浄</li> <li>・コンプレッサーのエアリーク箇所改善</li> <li>・社有車のアイドリングストップ</li> </ul>					
2	汚泥 (充填不良、廃バルク) の削減 (kg)	660,790	627,750	647,574	
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	
	汚泥 (充填不良、廃バルク) の原単位削減 (kg)	6.426×10 <sup>-3</sup>	5.912×10 <sup>-3</sup>	5.912×10 <sup>-3</sup>	
	(基準年比)	—	▲8%	▲8%	
	廃プラスチック類の削減 (kg)	123,255	117,092	120,790	
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%	
	廃プラスチック類の原単位削減 (kg)	1.199×10 <sup>-3</sup>	1.139×10 <sup>-3</sup>	1.139×10 <sup>-3</sup>	
	(基準年比)	—	▲5%	▲5%	
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・残バルクの削減 (汚泥削減)</li> <li>・ロットアウトの低減・改善 (汚泥削減)</li> <li>・再資源化の検討 (廃プラスチック削減)</li> <li>・不用品廃棄・削減 (廃プラスチック削減)</li> <li>・廃プラスチック類のコンパクト化 (廃プラスチック削減)</li> </ul>				

以下、次頁へ

前頁続き

3	上水使用量の削減 (m3)	25,666	24,382	25,152
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%
	上水使用量の原単位削減 (m3)	$2.496 \times 10^{-4}$	$2.371 \times 10^{-4}$	$2.371 \times 10^{-4}$
	(基準年比)	—	▲5%	▲5%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率的なバルク製造</li> <li>・節水の実施</li> </ul>				
4	下水道排水の削減 (m3)	47,114	44,758	46,172
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%
	下水道排水の原単位削減 (m3)	$4.582 \times 10^{-4}$	$4.353 \times 10^{-4}$	$4.490 \times 10^{-4}$
	(基準年比)	—	▲5%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・効率生産による洗浄回数改善</li> <li>・節水の実施</li> </ul>				
5	化学物質の現状維持： P R T R 制度対象物質 (kg)	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757	F : 16,693 POE : 0 NaDS : 76,757
	(基準年比)	—	±0	±0
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現状の把握と管理</li> <li>・バルクロットアウトの低減・改善</li> </ul>			
6	コピー用紙の削減 (枚)	897,500	807,750	852,625
	(基準年比)	—	▲10%	▲5%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める</li> <li>・両面・集約等の機能を活用</li> <li>・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)</li> </ul>			
7	生物多様性保全活動	—	相模事業所の敷地で絶滅危惧種ミシマサイコの育成・栽培、啓発の実施	地域活動「柴胡の会」に参加、ミシマサイコの苗の育成、栽培、啓発実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の活動に参加</li> <li>・相模原事業所の敷地内に絶滅危惧種ミシマサイコを育成・栽培</li> <li>・従業員への啓発</li> </ul>			
8	製品開発において環境に配慮した施策を行う	—	80~82 期で 合計 3 件実施	1 件実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した製品の開発を行う</li> <li>・取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う</li> <li>・環境に配慮した原料、資材の使用を推進する</li> <li>・環境に配慮した製品仕様を検討する</li> <li>・SDGs に関する勉強会に参加する</li> </ul>			

※CO2 排出量係数：電気・0.000455t/kWh (調整後)、ガス・0.00223t/Nm<sup>3</sup>、ガソリン・0.00232t/L、軽油・0.00258 t/L

※化学物質の管理／ F：フッ素関連、POE：ポリオキシエーテル、NaDS：ドデシル硫酸ナトリウム

※「廃棄物/汚泥」の中期目標を修正した。80 期の削減が大きかったため、原単位削減目標を「-5%」から「-8%」にした

### 7. 3 大阪営業所 (81 期)

	項目	78 期 (基準年度) 実績値	82 期 (中期目標) 目標値	81 期 (来期) 目標値
1	CO2 排出量削減 (t)	2,147	2,039~2,254	2,039~2,254
	(基準年比)	—	±5.0%	±5.0%
	電力使用量削減 (kWh)	6,427	6,106~6,748	6,106~6,748
	(基準年比)	—	±5.0%	±5.0%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不在時と休憩時間の消灯実施</li> <li>・使っていない電気機器の電源オフ実施</li> <li>・夏季冬季のエアコン設定温度管理</li> </ul>				
2	上水使用量の把握 (m3)	23	21.9~24.2	21.9~24.2
	(基準年比)	—	±5.0%	±5.0%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水に心がける</li> </ul>				
3	一般廃棄物の最終処分廃棄量削減 (kg)	434	412~434	412~434
	(基準年比)	—	95~100%	95~100%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・排出量の現状を把握</li> <li>・使用済み封筒等再利用徹底</li> <li>・印刷物を作成する場合、必要最小限の部数に留める</li> <li>・ゴミ削減及びリサイクルの意識徹底</li> </ul>			
4	コピー用紙使用量削減 (枚)	14,795	13,315	13,760
	(基準年比)	—	▲10%	▲7%
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める</li> <li>・両面・集約等の機能を活用</li> <li>・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)</li> <li>・電子ファイル化推進</li> </ul>			
5	環境に配慮した製品の開発	—	80~82 期で 合計 3 品目実施	81 期 1 品目実施
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境に配慮した製品の開発を行う</li> <li>・取引先に対して、環境に配慮した製品の提案を行う</li> <li>・環境に配慮した原料、資材の使用を推進する</li> <li>・環境に配慮した製品仕様を検討する</li> </ul>			

※CO2 排出量係数：電気・0.000334t/kWh (調整後)

#### 7. 4 新生富山事業所 (81 期)

	項目	79 又は 80 期 (基準年度) 実績値	82 期 (中期目標) 目標値	81 期 (来期) 目標値
1	CO2 排出量の把握 (t)	703 (80 期)	668~738	689
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%
	電力使用量の把握 (kWh)	868,332 (80 期)	824,915~911,749	850,965
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%
	LPG 使用量の把握 (m3)	37,192 (80 期)	35,332~39,052	36,448
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%
	ガソリン使用量の削減 (L)	1,106 (79 期)	1,073	1,083
	(基準年比)	—	▲3%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不在時と休憩時間の消灯実施</li> <li>・使っていない電気機器の電源オフ実施</li> <li>・夏季冬季のエアコン設定温度管理</li> <li>・社有車のアイドリングストップ</li> </ul>				
2	廃プラスチック類の量の把握 (kg)	0 (80 期)	~5	0
	(基準年比)	—	95~100%	±0%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・再資源化を検討しつつ、総廃プラスチック量を毎月測定し、記録する</li> </ul>				
3	上水使用量の把握 (m3)	2,600 (80 期)	2,470~2,730	2,548
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水に心がけつつ、上水使用量を毎月測定し、記録する</li> </ul>				
4	下水道排水量の把握 (m3)	2,778 (80 期)	2,639~2,917	2,722
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水に心がけつつ、下水道排水量を毎月測定し、記録する</li> </ul>				
5	化学物質使用量の把握：PRTR 制度対象物質 (kg)	59.0 (80 期)	56.1~62.0	57.8
	(基準年比)	—	95~100%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・PRTR 制度対象物質を把握し、使用量を毎月測定し、記録する</li> </ul>				
6	コピー用紙の削減 (枚)	85,000 (80 期)	82,450	83,300
	(基準年比)	—	▲3%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・印刷物を作成する場合は、必要最低限の部数に留める</li> <li>・両面・集約等の機能を活用</li> <li>・ペーパーレスの推進 (FAX のペーパーレス等)</li> </ul>				
7	周辺地域のゴミ拾い活動	—	ゴミ拾い活動実施	ゴミ拾い活動実施
	(基準年比)	—	▲3%	▲2%
<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎月、周辺地域のゴミ拾い活動をする</li> </ul>				

※CO2 排出量係数：電気・0.000527t/kWh (調整後)、LGP・0.00655t/m3、ガソリン・0.00232t/L

※物質使用量 (コピー用紙) について、基準年度と中期目標を修正した。基準年度を「79 期」から「80 期」に、中期目標を「基準年度比・10%」から「基準年度比・3%」にした

80 期に新生富山事業所が本格稼働し、生産量も増大したので、79 期の量を基準にするよりも、80 期を基準にした方が現実的だと判断した

## 8. 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

80期、各事業所は、各種適用法規が遵守されております。また、各事業所に対する、国、各事業所のある都府県・市区町村、近隣の住民からの指導、訴訟及び苦情は有りませんでした。

適用される法規等	本社	相模原事業所	大阪営業所	新生富山事業所	遵守評価
省エネ法	✓	✓	✓	✓	遵守
廃棄物処理法	✓	✓	✓	✓	遵守
消防法	✓	✓	✓	✓	遵守
都民の健康と安全を確保する環境に関する条例	✓	—	—	—	遵守
神奈川県地球温暖化対策推進条例	—	✓	—	—	遵守
フロン排出抑制法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市廃棄物の減量化、資源化及び適正処理等の推進に関する条例	—	✓	—	—	遵守
大気汚染防止法	—	✓	—	✓	遵守
水質汚濁防止法	—	✓	—	—	遵守
神奈川県生活環境の保全等に関する条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法	—	✓	—	—	遵守
相模原市下水道条例	—	✓	—	—	遵守
下水道法（上市町下水道条例）	—	—	—	✓	遵守
悪臭防止法	—	✓	—	✓	遵守
騒音規制法	—	—	—	✓	遵守
富山県騒音規制法に基づく騒音について規制する地域の指定等について	—	—	—	✓	遵守
相模原市条例；悪臭防止法による悪臭原因物の排出を規制する地域等について	—	✓	—	—	遵守
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律（化管法）	—	✓	—	✓	遵守
化学物質の審査及び製造等の規制に関する法律	—	✓	—	✓	遵守
工場立地法	—	✓	—	✓	遵守
相模原市工場立地法に基づく市準則条例	—	✓	—	—	遵守
労働安全衛生法	—	✓	—	✓	遵守

## 9. その他の活動

### 9.1 SDGs 推進



2021年3月2日(火)、代表取締役社長より「SDGsの取り組み宣言」が成されました。これに伴い、議事録や報告書等の書類作成にあたっては、SDGsの17の目標の中で、何に貢献するものなのかを記すこととなりました。これにより、従業員一人一人がSDGsに関心を持ち、地球規模の課題を考えるきっかけになることが期待されます。

相模原事業所では、「さがみはらSDGsパートナー」に登録しました。これは、相模原市とともに、SDGsの達成に向けた取組や地域課題の解決、SDGsの普及啓発に取り組む企業・団体等を「さがみはらSDGsパートナー」として登録する制度です。

2020年12月22日(火)、相模原市役所にて、登録証盾交付式が行われました。



さがみはら  
SDGs  
パートナー  
つながり つぎつぎ しあわせの輪



さがみはらSDGsパートナー登録証盾(左)と盾の授与(右)

### 9.2 エコアクション21研修



2020年10月13日(火)に新生富山事業所にて、2021年4月9日(金)に相模原事業所にて、新入社員とキャリア入社社員を対象に「エコアクション21」に関する講義研修を行いました。

講習内容: エコアクション21と当社の活動について  
講師: 江尻茂之



エコアクション21研修の様子(新生富山事業所)

### 9.3 社内の安全衛生と健康経営活動(AED訓練)



相模原事業所ではAEDを2機設置しています。2020年、2021年新入社員とキャリア入社社員を対象に、2021年4月2日(金)、AED取扱い説明会を、警備会社の指導のもと実施しました。

コロナ禍の影響で前期は開催できませんでしたが、今回はソーシャルディスタンスに留意しながら実施しました。



AED訓練の様子

## 9. 4 緊急事態への準備及び対応



### <避難訓練（本社）>

80期は、2020年10月20日（火）及び2021年3月16日（火）に、新宿野村ビルの管理会社主導で、避難訓練を行いました。今後も1年に春と秋の2回、避難訓練を行なう予定です。



本社 避難訓練の様子

### <避難訓練（相模原事業所）>

80期は、2021年3月3日（水）の夕方（日勤者対象）と夜（夜勤者対象）に、相模原北消防署の協力を得て、火災発生を想定した避難訓練と放水訓練を行いました。今後も1年に1回、避難訓練を行なう予定です。



相模原 日勤 避難訓練、放水訓練の様子



相模原 夜勤 避難訓練の様子

<屋外タンク漏洩時対応訓練 (相模原事業所) >

80期は、2021年8月23日(月)に、屋外タンク(グリセリンタンク、ソルビットタンク)からの漏洩時対応訓練を行いました。

3号棟の増築に伴い、新しい屋外タンクが2機設置されましたので、これらも訓練の対象に加えました。



3号棟用の屋外タンク

<避難訓練 (大阪営業所) >

80期は、2021年3月28日(日)、防災グッズの確認、避難経路の確認を行いました。今後も1年に1回、避難訓練を行なう予定です。

<避難訓練 (新生富山事業所) >

80期は、2020年12月29日(火)に、火災発生を想定した避難訓練を行いました。今後も1年に1回、避難訓練を行なう予定です。



新生富山事業所 避難訓練の様子

## 9.5 社会貢献活動

<献血 (相模原事業所) >



相模原事業所では毎年「神奈川県赤十字血液センター」の献血に協力しています。80期は2020年12月28日(月)、相模原事業所正面に献血車をとめてもらい献血を行いました。コロナ禍でしたので、ソーシャルディスタンスに充分配慮して対応しました。今回は従業員49名の協力が得られました。



献血の様子

< ゴミ拾い活動 (相模原事業所、新生富山事業所) >



相模原事業所では、2016年から事業所近隣歩道でのゴミ拾い活動を行っています。80期は4回(11/20、12/23、4/22、5/24)のゴミ拾い活動を行ないました。6～10月、1～3月は新型コロナウイルスの影響で、活動を中止しました。

80期から新生富山事業所でも事業所近隣歩道でのゴミ拾い活動を始めました。80期は5回(10/20、11/25、3/19、4/27、5/28)行ないました。



相模原事業所 ゴミ拾い活動の様子



新生富山事業所 ゴミ拾い活動の様子

< 使用済み切手の回収活動 (本社、相模原事業所) >



79期から相模原事業所では、使用済み切手の回収を始めました。今期からは本社も回収に参加しています。収集した切手は、「公益財団法人ジョイセフ」にお送りしています。

寄付金は開発途上国で推進する妊産婦と女性の命と健康を守る活動のための資金の一部として活用されます。今期は2020年6月に980g、2021年5月に340gをジョイセフにお送りしました。



回収した使用済み切手

<アルミ空き缶とペットボトルキャップの回収活動（相模原事業所）>



2018年よりアルミ空き缶とペットボトルキャップを回収し、「NPO法人アルミ缶でボランティア」の活動に参加しています。この活動は回収したアルミ空き缶を再資源化し、そこで得た売却益を「国連WFP協会（国連世界食糧計画）」に寄付し、世界の学校給食を支援するものです。また「NPO法人アルミ缶でボランティア」では、ペットボトルキャップの売却益を「認定NPO法人世界の子供にワクチンを日本委員会（JCV）」に寄付する活動も行っています。

今期は2020年11月19日に、アルミ空き缶2,220個とペットボトルキャップ18kgを「NPO法人アルミ缶でボランティア」に引き渡し、ゴミの再資源化と発展途上国の子供たちへのボランティア活動に協力しました。

素材	引き渡し量	提供物
アルミ空き缶	2,220 個	1 日の給食 49.3 人分
ペットボトルキャップ	7,740 個 (18kg)	ワクチン 4.5 人分



収集したアルミ缶とペットボトルキャップ

**9. 6 生物多様性の保全活動（絶滅危惧植物の保護活動）**



79期から、絶滅危惧種であるミシマサイコ（薬草）の育成・栽培を始めました。「相模原柴胡の会」に参画し、相模原事業所の敷地内でも育成・栽培を行っています。（<https://main-townguide.ssl-lollipop.jp/saiko/index.html>）

**【ミシマサイコ】**

科名：セリ科、和名：三島柴胡（生薬名・柴胡）。  
本州、四国、九州の日当たりの良い山野に自生する多年草。

**【相模原におけるミシマサイコ】**

相模原市域には古来より相模野台地といわれる広大な原野があり、そこには自生のミシマサイコ群生地「柴胡が原」が存在しました。夏には一面に黄色い花が咲き、秋には貴重な薬草（根が漢方生薬・柴胡の原料）として採取されていました。

1900年代から都市化が始まり、1950年代には都市化・工業用地化の進行で自然環境が激変してしまいました。相模原市内で最後に自生のミシマサイコが見られたのは1955年頃といわれています。



ミシマサイコの花

【相模原柴胡の会への参加】

「相模原柴胡の会」は、ミシマサイコを、生物多様性に関する法を遵守しながら育成・栽培して、啓発普及を図るとともに、相模原市の環境保全とイメージアップにも寄与することを目的とする団体です。

相模原事業所では有志を募り、毎月「相模原柴胡の会」に参加しています（今期はコロナ禍に伴う緊急事態宣言により、活動は何回か中止になってしまいました）。

ミシマサイコを栽培している「相模原麻溝公園 柴胡花壇」や「県立相模原公園 柴胡が原陸橋命名碑前 下溝柴胡花壇」、「麻溝・モナの丘 柴胡育成園」にて、花壇の草取り（雑草除去）や育成状況の確認、種の採取などを行いました。



相模原麻溝公園 柴胡花壇での活動  
(2020年6月18日撮影)



県立相模原公園 下溝柴胡花壇での活動  
(2020年6月18日撮影)



麻溝・モナの丘 柴胡育成園での活動  
(2020年7月16日撮影)



県立相模原公園 下溝柴胡花壇 満開  
(2020年9月17日撮影)

【当社相模原事業所敷地内（ミシマサイコ群生地の一つであった大山工業団地）での育成・栽培】

2020年3月に、相模原事業所でミシマサイコの種をプランターにまき、育成・栽培を開始しました。6月初旬には発芽し、夏には大きく育ちました。



種まき (2020年3月18日撮影)



栽培状況 (2020年8月17日撮影)

夏から秋にかけて、大きく育ちましたので、11月にプランターから花壇に植え替えを行いました。1月には葉は枯れましたが、根本は緑色の状態であり、春にはまた緑色の葉が生えてきます。



花壇へ植え替え (2020年11月11日撮影)



一旦葉が枯れる (2021年1月21日撮影)

2021年5月28日、相模原事業所で栽培しているミシマサイコの苗を普及活動の一環として、従業員の希望者(35名)に配布しました。

「ミシマサイコの栽培方法」に関するリーフレットも一緒に配りました。現在、各自が家で苗を育てています。



従業員玄関でミシマサイコの苗を配布 (2021年5月28日撮影)



配布したミシマサイコの苗 (2021年5月28日撮影)

## 10. 代表者による全体の評価と見直し・指示

### <全体の評価>

世界的な新型コロナウイルスの蔓延に伴い、79期後半（2020年春）から、一部の原料やユニフォーム（マスクや手袋など）の入手困難が発生している。可能な従業員についてはリモートワークや時差出勤を、定時出社が必要な従業員については徹底した消毒と、可能な限りソーシャルディスタンスを実施してもらっている。

ワクチン接種が進んでいるものの、今後も暫くの間は、with コロナに対応した業務を行う必要があると覚悟しているところだ。

相模原事業所では3号棟の稼働が開始し、生産数量も年々増加していることから、電力、ガスの使用量が増え、二酸化炭素排出量の増加を招いた。製品1本当たりの原単位で比較しても、基準年度にあたる78期比で大きな増加になってしまった。エネルギー使用量に対して効率的な生産が成されていないものと思われる。

一方で、廃棄物については、一定の削減を実現した。汚泥排出量は増加したものの、原単位では削減され、廃プラスチックは量も原単位も削減された。

また、生物多様性対応として、絶滅危惧種植物である「ミシマサイコ」の保全活動が活発に行われたことを評価したい。

本社では、リモートワークの影響もあり、廃棄物排出量とコピー用紙の使用料が大きく削減された。コロナ禍によって生まれた良い側面と捉え、81期以降も廃棄物を出さない、紙を使用しない習慣の継続を期待している。

大阪営業所についてもリモートワークの影響で、コピー用紙の使用料が大幅削減された。本社同様、この良い習慣を継続してもらいたい。

新生富山事業所については、新工場が本格稼働となり、それに伴って電力及びガスの使用料が大幅に増大した。工場の増改築、生産量の増大があったため、仕方がないと考えている。

### <見直し・指示>

新しい期を迎えるにあたり、相模原事業所には前期同様、廃棄汚泥に繋がる廃棄パルクや破棄原材料の削減と、3号棟の効率的な稼働による、原単位でのエネルギー使用量等の削減を実現するよう指示した。

また、81期中に太陽光発電を導入し、一部の使用電力を再生可能エネルギーに切り替える予定だ。

本社と大阪事業所には新しい取り組みを、新生富山事業所には、80期の実績を基準として、来期のエネルギー使用量等の削減を指示した。

2021年3月、「SDGs経営」宣言を行った。社内にSDGsを浸透させ、皆がSDGsを考えるきっかけづくりになるよう、従業員には作成する議事録や報告書、ワークフローに、SDGsのどの目標に貢献するのかを記させるようにした。また、各部署へSDGsに関わる提案の募集も行っている。

社会貢献と環境負荷軽減、利害関係者との良好な関係構築をしながら、それと同時に当社が持続可能な経営を実現し、より企業価値を高めることを、SDGsを通じて進めていきたい。

環境負荷低減については、「エコアクション21推進委員会」と特定事業者としての活動を行なう「省エネルギー推進委員会」が協力し、リーダーシップをもって、より一層従業員に省エネや環境への配慮の必要性を浸透させることを期待している。

### <環境経営方針及び実施体制の見直し>

項目	見直しの有無	評価コメント
環境経営方針	無	現時点での環境経営方針の見直しは不要
実施体制	無	現時点での実施体制の見直しは不要

2021年 7月 5日  
代表取締役社長 神保 貞夫